

PROGRAM

If I Were A Bell

Frank Loesser

When Lights Are Low

Benny Carter

From My Point Of View

Mihoko

Everything Happens To Me

Matt Dennis

Whirling Away

Mihoko

~ intermission (休憩) ~

I Remember You

Victor Schertzinger

Whisper Not

Benny Golson

Windows

Chick Corea

Autumn in New York

Vernon Duke

We'll See

Mihoko

(曲順不同。曲目は変更になる場合があります。)

MIHOKO (Piano)



北海道室蘭市出身。札幌大谷短期大学音楽科卒業、同専攻科修了。
 在日中は、ピアノ講師を務める傍ら、ピアノ、オルガン奏者として活動。
 2000年に渡米。パークリー音楽大学でジャズを学び、同校パフォーマンス科を卒業。Magna cum laude でバチューラ取得。
 ジョアン・ブラッキーンとハービー・ダイヤモンドに大きな影響を受ける。卒業後、ボストンの有名ジャズクラブを始め、ニューヨークなど多数のライブスポットに出演。自己のトリオの他、様々なグループのメンバーとして積極的に演奏活動を行っている。ボストンの二大駅のノースステーション街頭ライブでは、多くの市民が足を止め演奏に聴き入り、高い評判を得た。また、かつてデューク・エリントンなど多数の有名ミュージシャンが演奏を行ったユニオン・ユナイテッド・メソジストチャーチで開催されているジャズ・アット・ユニオンシリーズでは、メリー・ルー・ウィリアムス(歴史的な女性ジャズピアニスト)のトリビュートコンサートで、多くのメリー・ルー作品を演奏し、好評を博す。その一方、ラテンアメリカミュージシャンとも親交を深め、サルサ、ラテンジャズなどのピアニストとしても活動。
 毎年ボストン市内や郊外各地で行われるラテンミュージックフェスティバルにも出演。
 タイガー大越、キャメロン・ブラウン、ヨロン・イズラエル、ギロ、レイ・ゴンザレスなどと共演。
 日本では、毎年札幌芸術の森で開催される「北海道グループキャンプ」に、アシスタント兼通訳としてプログラムスタート時より7年間参加。米パークリー音楽大学の教授、講師らとともに後進の指導に携る。

自己のトリオによるファーストアルバム『We'll See』を2010年にリリース。ボストン最大のFM局WGBHを含む、アメリカ各地のNational Public Radioにてエアプレイされている。同年、レコーディングメンバーによるツアーで室蘭ジャズクルーズを皮切りに新冠町、赤平市、札幌市で開催。
 2011年、ボストン市内や近郊ジャズクラブにて同メンバーによるCDリリースコンサートが行われ、満席になる人気を集めた。
 2015年、コネチカット州ハートフォード市で開催のBaby Grand Jazz コンサートに出演、スタンディングオベーションを受ける。現在は、日本でのライブコンサート、個人やバンドの指導を増やし、アメリカと札幌を往来しながら活動の幅を広げている。



重松 忠男
(Bass)

1955年北海道釧路生まれ。学生時代より演奏活動を札幌中心に開始。
 1980年ごろよりライブハウスを中心に本格的な音楽活動始める。
 1992年Joe Henderson やRon Carter などと録音し米国を中心に活躍中の北海道出身のギタリスト笹島明夫氏の薦めで妻でもあるボーカルの本居まみとともに渡米。サンフランシスコを中心にベイエリアのミュージシャンとJazz Club 『Pearl's』, 『Storyville』, 『Washington Square Bar & Grill』 『Bocce Café』, 『Horizon's』, 『Fifth Amendment』等ジャズクラブ、レストランなどでの演奏活動を続けた。
 2000年夏シカゴのライブハウス『ラッシュライフ』で数ヶ月活動した後ネバダ州リノに移動。複数のビッグバンドのレギュラーベーシストとして活動を続けCD『From Reno』を2005年8月に録音。
 2005年9月に札幌に戻り演奏活動を再開。Mizuho、Mihoko、板谷大、館山健二、須山恭一、松本建司、江川美喜夫、エスミー、ハニービー、折原寿一、山本敏嗣、山田敏昭やビッグバンド『銀河鉄道ジャズオーケストラ』といった北海道で活躍しているミュージシャンたちと共演する傍らニセコでスキーシーズン中にジャズライブ『ハーフノート』を2016年3月まで経営した。2012年秋にハーフノート出演者の板谷大、館山健二とともにIntroducing The Niseko Jazz Trio と本居まみを加えたOn The Sunny Side Of The Street を発表。海外ミュージシャンとの交流も盛んで笹島明夫、Gene Jackson、David Berkman、Mark Walker、タイガー大越、天野昇子、寺久保エレンなどと共演、日本を代表するジャズボーカリストCharito をゲストにHouse of Jazzや六花亭ふきのとうホールなどで共演。



黒田 佳広
(Drums)

札幌生まれ
 高校の吹奏楽部でドラム・パーカッションを学ぶ。
 大学で音楽活動を開始、様々なイベントに参加しプロとしての基礎を作る。
 卒業後はジャズドラマー、ラテンパーカッショニストとして市内ライブハウスを中心に活動。
 同時にヤマハ等の教室で講師として後進の指導にもあたる。
 タイガー大越、今津雅仁、ペッカー、平田文一、小濱安浩、村田浩、中川喜弘、水森亜土、新田親子等と共演。
 自身がリーダーを務める『Johnnie Kuroda & Dixie Prince』はその音楽の明るさから道内各地で好評を博し、2005年より新宿トラッドジャズフェスティバルに毎年出演を果たす。

『A Portrait』 『Come On And Here !』 『What A Wonderful World』の3枚のCDを好評発売中。

劇団四季『ライオンキング』札幌公演にパーカッショニストとして参加。
 その他
 ヤマハポピュラーミュージックスクール講師
 OZ Studio 講師
 Latin Labo主宰
 DCFA会員(ドラムサークルファシリテーター)
 北海道打楽器協会A会員

GUEST学生



佐藤 輝
(A.sax)

情報電子工学系学科 3年

中学校で吹奏楽部に入部し、高校時代を含め6年間バスケットボールを演奏。その後、室蘭工業大学へ入学しジャズ研究会へ入部。ジャズ研究会ではアルトサクソフーンを演奏しており、2018年1月21日より現在部長を務める。